

第七十四日目

師 範：アメリカ大統領のウィルソンは、国際紛争を話し合いや平和的に解決する国際機関として、国際連盟の創設を強く主張しました。戦勝国の多くの国がこの考えに賛同して、スタートすることになりました。

日本は常任理事国としてイギリス・フランス・イタリアとともに中心になりました。また連盟事務局長には新渡戸稲造が任命されました。



しかし、かんじんのアメリカは議会が大統領の主張を認めなかったので不参加になりました。

革命後のソ連も不参加。ドイツは招かれませんでした。

国際政治に大きな影響をおよぼす三つの国が参加しない連盟は限界をもっていました。

それでも、世界史の中で初めて国際的な平和機構ができたことは大切なことでした。

1920年 国際連盟が成立する。

この年を覚えましょう。

コン太：では



「ウィルソンに 特に礼をいう 国際連盟」

「とくに」は192、「れい」は0です。

師 範：少し直して

「ウィルソンに 特に礼いう 連盟は」

ウィルソンは、「ウィルソンの14か条」という宣言を発表し、その中で、民族の自決や国際連盟の構想を訴えました。

このことで、ノーベル平和賞を受賞しました。

国際連盟としては、ウィルソンは生みの親ですから、とくにお礼を述べたいという立場でしょうね。